

災害時に求められるボランティア

◆ 災害ボランティア

地震や水害などの災害発生時、被災地などで復旧活動や復興活動を行うボランティアを災害ボランティアといいます。

阪神・淡路大震災の被災地や後方での支援活動には、それまでボランティア活動の経験がなかった多くの一般市民が参加し、被災地復興に大きな成果を上げました。このことから1995(平成7)年は、「ボランティア元年」と言われています。

近年、全国各地で発生した自然災害では、近隣住民同士による支え合いをはじめ、避難所等での被災者への生活支援、また、医療・建築・語学等の専門的な分野まで、市民によるボランティア活動が広がっています。



◆ 物資の調達・運搬



◆ 物資の仕分け



◆ 水運び



◆ 話し相手



◆ 炊き出し



◆ 引越手伝い



◆ 屋内外片づけ



◆ 被災住民の安否確認



◆ 身の回りの介助

災害ボランティア活動の心得と注意点

ボランティアの心得

◆ 出かける前の準備をしっかり

情報収集、体調管理、食事や就寝場所の確保、交通費の準備など。

◆ 被災者の立場にたった活動を

あいさつや言葉づかい、約束を守るなど、基本的なことを大切に。

◆ 自分で考えて

周囲の様子をよく見て、自分ができることをやってみる。

◆ ルールを守って

勝手な判断はせず、グループで行動し、困ったらボランティアセンターに相談を。

◆ 断る勇気を持つ

危険なことやできないことは、できないとはっきりと。

◆ 思い込みをしない

報道などの情報から勝手な思い込みをしないこと。

◆ 地域住民の自立を支援

被災者に協力して一緒に復興をめざす。

持参すべき身の回り品の例

活動時の服装

熱射病対策
落下物の防護

帽子

ほこり除け
感染予防

マスク

作業時の
ケガ防止

軍手

知らない土地
での道案内

地図

土砂やがれきが
散乱する道を歩く
時の安全対策

丈夫な靴

持参するもの

お金



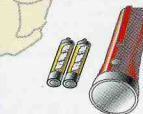
缶切りと栓抜き

非常用食と飲料水

洗面具



常備薬(目薬・うがい薬など)



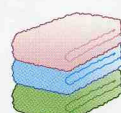
懐中電灯と乾電池



ごみぶくろ



ウェットティッシュ



タオル



雨具